

中国・淮安市と吉備中央町の友好交流の発祥について、岡崎彬さん（嘉平太氏の御子息）の手記を紹介します。

岡崎嘉平太記念館だより



Vol. 19

肖 向前(しょうこうぜん)という方がおられました。日中国交正常化以前、党書貿易よりはるか前に来日され、中日国交正常化に向けて下準備をされていた方です。

1972年日中国交正常化が実現し、日中が蜜月とも呼ばれるほどのよい国交関係を樹立し、周恩来総理の御言葉でもあった中日が共に協力して、先ずはアジアを強くして世界の列強と肩を並べるといふ大目標に向かい動き始めた頃の事でした。肖先生が嘉平太への墓参を望まれ、賀陽町(現吉備中央町)においでになりました。当時の町長は竹竝 堅さんでした。先生は墓参をすませ、町内を見学した後、吉備中央町と周総理の御生誕地淮安市を姉妹都市にすべきだとおっしゃいました。しかし、当時は雨後の筍の如く数多くの姉妹都市が生まれ、トラブルも発生しはじめており、中国政府は新しい姉妹都市、或は友好都市の締結に後ろ向きになっていました。

また、中国政府の許可がおりるには様々な要件がありました。例えば、人口が大体同じである、主産業、地形、歴史的価値が似通っているなど。しかし、吉備中央町と淮安市は、これらの要件を満たすものが見あたりませんでした。人口は淮安市が120万人、賀陽町は8千人とその違いが大きすぎました。産業では、平地の淮安市と山岳地の賀陽町に余り共通点はありませんでした。

私は、肖先生に、姉妹都市締結をするのは無理ではないかと説きましたが、『周恩来と岡崎嘉平太の生誕地ということより強固な姉妹都市関係が他に存在するであろうか。必ず締結して見せる。』とおっしゃいました。

そして、それから半年ほどで友好都市締結が許可されました。

例外的な事で、肖向前先生の大変な御努力の賜物でした。この折角の賜物を無駄にはならないと模索し、若者の交流が考え出されました。当時、日本人の海外渡航は自由にできましたが、中国人は仕事の上の必要性から特例的に認められる以外に海外渡航は不可能でした。但し海外からの招待があれば審査のうえ認められる場合もあり、淮安市の中学生を賀陽町へ招待することにしました。そして、淮安の学生をHomestayさせ、接触の機会がより厚くなるよう考えました。また、淮安でも賀陽町の中学生をHomestayで受け入れることになり、これには大変驚きました。当時の中国は戦争中の防諜制度が残っていて、外国人が中国人家庭に泊まる事はあり得ない事でした。

これらの過程を経て、現在淮安市と吉備中央町の相互訪問は完全に定着し、日本の中学校ではおそらく淮安市と吉備中央町のような相互交流は他に例が無いと思います。友好都市締結も、日本人が中国でHomestayできることも大変画期的な企画でした。

2012年12月16日



アジアは一つ

中国との関係を考えるとき、政治体制が相違しているという問題がある。これに対して私は、たとえ隣国がどういふイデオロギーであろうと、どっぴう政策をとろうとも、われわれ自身が、自主的に判断して行動できる実力と体質をもつてさえいれば、なんら心配することはないと考えている。堂々と共存しうるのである。(中略)現在でも中国に対して、共産主義がいやだ、見るのも聞くのもいやだ、という人がいるが、私はその考え方、行き方に同意できない。仮に共産主義の国が悪いと思うならば、それだけにかえてますます研究し、相手の状況をじゅうぶんに知ることが大切だと思ふ。(中略)隣の国に遠方へ引越せということも、日本が引越すことも、どちらも不可能なのはわかりきったことである。だから、お互いに両立できることを捜し出して両立するように、両立できないところはお互いが適当に避けるようにくふうしていくべきであろう。いやがってばかりいたのではしかたがない。(中略)現在アジアの諸国民は、中国を含めてみな自分の国を立派な独立国にしようというのを第一の切実な願いとしている。このことをわれわれはよく見つけていかなければならない。そして、たとえわが国に対して害になるようなことがあるとしても、それを避け、それを防ぐには相手国の事情をじゅうぶんに知っていて、初めて有効な手段がとれるというものである。相手を知っていれば、やむなくけんかになったとしても、じょうずなけんかができ、また、早く切りあげられると思ふ。(中略)

毛沢東主席の青年に対する次の呼びかけの言葉は、わが国の青年にもあてはまるように私は思ふのである。
「世界はきみたちのものであり、また、われわれのものでもあるが、しかし、結局はきみたちのものである。きみたち青年は午前八時、九時の太陽のように生氣はつらつとしており、まさに伸び盛りの時期にある。希望はきみたちにかけられている。」

岡崎嘉平太著『私は思うー日本の課題』昭和四十七年読売新聞社発行より



左の写真は、北京大学と東京大学の学生が立ち上げた国際学生討論団体『京論壇』のセッションの様子です。互いの国に一週間ずつ滞在し、日本と中国に横たわる様々な問題について徹底的に討論し、議論の成果を発信しています。
今秋開催予定の「岡崎嘉平太がめざした世界平和への道を考える第十二回講演会」へ、二〇一三年度東京大学実行委員会代表を講師として招聘しています。日中の若人が導き出す成果に期待が膨らみます。



(公財)岡山県郷土文化財団
編集・発行：岡崎嘉平太記念館

〒716-1241 加賀郡吉備中央町吉川4860-6 きびプラザ内
TEL 0866-56-9033 FAX 0866-56-9066
ホームページ <http://www.okazaki-kaheita.jp>
Eメール okmh@okazaki-kaheita.jp



最優秀賞
「緑の世界」 杉本小銀

第7回 嘉平太が愛した ふるさと岡山 写真展 心なごむ風景

岡崎嘉平太先生は、ふるさと岡山をこよなく愛され、故郷の人との交流を大切にされました。この写真展は、写真を撮ること、作品をみることを通じて、多くの人に岡山の良さを再認識していただきたいと願い開催しています。このたび応募された作品は、現在、岡崎嘉平太記念館で全作品を展示しています(7/6(土)まで)。また、岡山天満屋地下アートスペースにて7/10(水)～7/15(月)まで入賞を含む100点を展示していますので、お誘い合わせの上、ご覧ください。4/20(土)に、長瀬正己先生、森山知己先生、当館館長で厳正に審査をしました。結果は、表の通りです。

最優秀賞	杉本小銀 「緑の世界」	入 選	
優 秀 賞	川畑満明 「秋の黄昏」	大 本 悦 子	安 東 稔
	神崎由子 「春うらら」	酒 井 章 三	橘 高 繁 福
審 査 員	浅野 真 「日暮の刻」	高 橋 克 美	高 木 義 昭
特 別 賞	石村秋子 「備前富士遠望」	西 山 千 賀 子	武 田 久 雄
	横溝正行 「凜として」	前 原 勲	東 直 美

5/20(日)には表彰式を行いました。最優秀賞の杉本小銀さんは、「写真を始めた頃からたびたび訪れている場所で撮影した。『緑の世界』を表現したいと、意図的に絞り込み、あらわした作品。」と述べられました。

森山知己先生は、「審査では、まず作者自身の表現意図が強く感じられるかどうか、またそれが具体的な表現に結びついているかどうかを第一に注目し、同時に写真という技術の特徴が見られるのかも加味して選考している。特に今回は、カメラ、プリント、パソコンでのデジタル処理など、表現することにおいて作者が選択出来る事が飛躍的に拡大している現在の状況もふまえ、表現意欲をどのような形で見せようとしているかも重要な選考要素とした。」と講評を述べられました。

岡崎嘉平太国際奨学財団の来館

平成25年5月10日(金)



大和小学校のお友達と共に、手作り兜を贈っていただきました。



植樹した桜と



墓参の様子

岡崎嘉平太国際奨学財団第23期奨学生の方さん、王さん(中国)、チューさん(ベトナム)、ディアさん(タイ)と共に嘉平太先生の母校・大和小学校を訪れ、あたたかい歓迎を受けました(左写真)。また、嘉平太先生の墓所のおまいり(右下写真)や、大和山での桜の記念植樹(右上写真)をしました。植えられた桜は地元の方々の御世話を受け、春には可憐な花を咲かせています。

岡崎嘉平太国際奨学財団奨学生は、選考を経て日本へ招聘され、奨学金支給等の支援を受けながら、大学院修士課程で学んでおり、アジアの将来を担う素晴らしい若人たちです。



これからの展示のお知らせ

岡崎嘉平太記念館 夏の特別企画
LPジャケットで巡る世界の音楽～アジアを中心に～

Lプレコードジャケット展ご案内

世界の伝統音楽や民族音楽のLPジャケット50枚を展示します
30センチ四方のジャケットアートの世界をお届けします

- ・期 間：2013年8月7日(水)～8月18日(日) (13日は休館日)
9:00～17:00(入場は16:30まで)
- ・会 場：岡崎嘉平太記念館 研究室



Lプレコードコンサート

～展示ジャケットの曲目を中心に～

- ・日 時：8月17日(土)午後1時～3時
- ・会 場：岡崎嘉平太記念館研究室
- ・解 説：Lプレコード収集家 行正健志氏

お問い合わせ先
(公財)岡山県郷土文化財団 岡崎嘉平太記念館
加賀郡吉備中央町吉川4860-6 きびプラザ内
☎0866-56-9033 Fax0866-56-9066

頒布しています

『岡崎嘉平太がめざした世界平和への道を考える第11回講演会』

平成24年11月3日(日)に開催した講演記録です。講師及び演題は、次の通りです。

◆講師及び演題

中央大学総合政策学部教授
服部 龍二 氏
「岡崎嘉平太と中国」

元中華人民共和国駐大阪総領事
劉 智剛 氏
「岡崎先生との思い出
—これからの日中友好—」

日中国交正常化40周年記念
岡崎嘉平太がめざした
世界平和への道を考える
第十一回 講演会

価格 300 円

購入の希望や、
お問い合わせは、
岡崎嘉平太記念館
まで。